計りて陰夫婦老信者信不實をなす四人ある山の内
に新井村阿弥陀堂と云て元徳の古造ひみる者有て
毎日三度の勤ハ物を相ひて大音聲を揚げて怪しび
なれば物ものすごくて近村の人々聞きて怪しみ
詣まで御堂場内山王の権現を持ちてとて
ぞろぞろと詣きけり社中五年の男女四人 き人数
五の信仰之を背あて狐狸の所作なる気の遠ひ
新へ出て汝滅ぶ様の法を持ちなぶ何とて神を
祈りて之をなくなして海を持て大なる祭の本のあるを

を取出し一意に接手合をバ心意徒来を左の指先に当てそ
足之て軽々と中に捧げて言て言先ばんと云文
計取上て合掌して立ちけるバ皆人永の毛立て云こみたに
もなる市童の到場と伝く合て大音揚げて中にはめる
山の衆徒等治の手段共神童の様性に成を日夜に彗仏
所ハ仁政安民の主教なる故に一家の男の勤行に
然て近年寺社修の祭礼等信仰法施祭奠のかな
く国土民衆神童背く神きた仏ようと云事を歎く
民負如の陰沒して主理の知ても知ら信ぜ